

## 平成27年度第1回宗像市郷土文化学習交流館協議会議事録

○日 時：平成27年10月6日（火曜日） 15時から16時30分

○会 場：海の道むなかた館 講義室

○出席者：亀井会長、樋田副会長、海出委員、河窪委員、園元委員、牟田委員

【事務局】 西谷館長、福崎部長、柚木課長、徳永室長、灘谷局長、安部係長、白木係長、広渡係長  
判田主査、磯部技師

### 1 辞令交付（館長より委員に辞令交付）

#### 委員自己紹介

### 2 会長あいさつ

○会長

こんにちは、本年度の第1回目ということです。今年度は資料を見ると入館者数も順調に増えていきますし、イベントや事業も順調におこなっていただいていますし、ますますこの館が定着するということをご期待したいと思います。それから沖ノ島と関連遺産群がユネスコの認定というのが手の届くところにいきつつあり、そうやってきますと単に沖ノ島だけではなくて宗像全体の地質年代から現代に至るまでの歴史というものを考え、また発信していく、そしてそれをどうしていくかということで、この館の役割もますます重要になってくるので、実際の事業にあられる館長以下皆様方のご努力に感謝しつつ今後発展することお祈りしたいと思います。今日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。議題に入っていきたいと思います。よろしくお祈りします。

### 3 報告事項

#### (1) 平成26年度2回宗像市郷土文化学習交流館協議会議事録について

##### 資料1：平成26年度第2回宗像市郷土文化学習交流館協議会議事録（要旨）

○会長

皆様方のお手元の前回議事録をご覧いただきまして、お気づきの点がございましたらご指摘いただきたいと思います。もしないということであれば最後にこれでよいかということをお諮りしたいと思います。

○会長

特に訂正等なければ議事録の内容にご了解いただいたということで。もし何かありましたら後日事務局にお届けいただくということにさせていただきます。最初に申し上げるべきでしたが、今回は1週間ぐらい前に資料を送っていただきまして本当にありがとうございました。比較的余裕をもって目を通すことができましたので今後ともよろしくお祈りします。

#### (2) 平成27年度 宗像市郷土文化学習交流館事業について

##### 資料2：平成27年度海の道むなかた館催事一覧表（前期）

○会長

今日の資料は今年度4月から9月までに実施されたもので10月以降に関しては昨年度の2回目の審議会で一応ペーパーをいただいているのですが、要点がありましたらそれも併せてご説明いただくとありがたいです。よろしくお祈りします。

【事務局説明】

○会長

今の説明について、ご質問やご意見がございましたらお願いします。

○委員

地元のコミュニティにいたしましても世界遺産登録に関しまして、地元の人たちの盛り上がりは今イチ厳しいものがあります。今後、コミュニティを通じての宣伝などをしっかりとお願いしたいと思います。良いことをやられておりますので、地元の方は数分で歩いて来るところにあります。私が聞いてみますと「長いこと行ってない」という声が多いですからそのところも関心もてるように企画を変えてみるとか、同じ企画でも関心もてるよう、足を運んでみようかなと思うようなものができればいいと思っております。

○会長

ありがとうございます。結構難しい課題ではありますが、宗像市全体ということでやはり手の届くところに行きつつあるわけですから、それをゲットするためには地元のバックアップが必要です。いろんな形でいろんなところが小さな核にはなるのですが、大元として、この館でまとめてアレンジしながら展開していくというそのようになればいいなと思います。答えのないことですが、今おっしゃった地元のコミュニティのご様子というものは非常に貴重なものですので今後十分に踏まえていただければと思います。

○委員

午前中、宮地嶽神社でレクチャーを受けたのですが、宮地嶽神社には日本一大きな鈴があるということでした。「鈴の文化史」というのは宗像で出土したものの中に鈴があったということですか。

○事務局

宗像で出土した古墳時代の鈴はよその地域に比べて多いです。鈴は単なる楽器というよりも神様とのコンタクトに使う祭祀的な道具でもあります。馬鈴という馬につける大きな鈴もあります。宮地嶽神社は、日本一が大好きなのでしめ縄等、上の石室は全国2番目ぐらいの大きさですが、あとはお作りになったものだと思います。

○委員

入館者数についてお伺いしたいが、この入館者数は、入り口でチェックされて積み重なったものだと思いますが、昨今個人情報などございましてなかなかそういうものは難しいと思いますが、今後、イベントを企画されるにおいてどういう層の方が入館されているかを知ることも大きな資料になるんじゃないかと思いますが男性か女性、年代、どこから見えたかということに丸をうっていただくようなアンケートを取るということは考えていらっしゃいませんか。

○事務局

ありがとうございます。そのようなご意見もございまして今回の鈴の特別展の中でアンケートをとろうかとアンケートのたたき台はできています。ただ、どのような形でアンケートをとるのか、例えば地域学芸員の方にご協力いただき、地域学芸員さんが聞き取りで書くのか、自由にとっていただき記入してもらうのか、現在検討しているところです。毎回とるとするのは難しいので特別展等の機会の中で拾い上げてみようかと現在すすめております。

○委員

分かりました。ありがとうございます。

○会長

確かホームページをお持ちだったと思いますが、ホームページを通じて何かご意見をもらうようなコーナーがありましたかね。

○事務局

はい、書いていただくところがございます。むなかた電子博物館をもっていますが、その中に

も問合せはあります。「田熊石畑の公園に遺物は展示していますか。」などの問い合わせは入っています。そういった問い合わせに対しては文化財を通してご回答しております。

○会長

それともう1つは、個人情報の問題もありますが、ご本人が了解すればという前提でメールアドレスをうかがっておき、そして館の方でイベントがあるなどの毎回そういう情報を送るというのはサーバの関係や人手の関係等々で難しいでしょうか。

○事務局

先にご説明すればよかったですのですが、現在、むなかた館の中でどこまでやれるかはわかりませんが、この講義室の中で橙色と緑色の点が光っているところがあると思いますが、あのW i e f iがこの館でつながるようになります。今現在検討していますのは、スマートフォンで館内の情報が取り出せるようなしくみを業者と開発するように調整しているところです。そうなってきますと、そのシステムの中でプッシュ機能というものがありまして、うちの館を登録されている方にプッシュ通知することができる可能性があるという話を聞いています。現実的になるかというのは未定ですが、今後このような電機機器を使い、いろんな形でPRしていきたいと思っています。

○会長

そうすると思いつきみたいになりますが、地元だけではなくて、何をやっているのかな、情報が全く入らない、意図的に意識的にホームページを見ないとわからないという方にもこのようなものを行いますよとメールで送れば、うるさいと思う方は止めればいいので、あるいは今そういうことも念頭におきながらご検討いただいているということなのでぜひ良い方向で結論がでるようにしていただければと思います。それではこれで2番目の報告も承ったということにさせていただきたいと思っています。

### (3) 平成27年度郷土文化交流課(文化財係)事業について

#### 【事務局説明】

○会長

ありがとうございました。7月に行われたオープニングのいろんなイベント、多くの方がこられるようになって盛り上がったということで今後それをどのようにつないでいくか、また1つ課題として生まれたのかなと思ったりもします。これにご参加なさった方もいらっしゃるかもしれませんがそういうことも踏まえてお感じになったことなど一言いただけたらと思います。

○会長

今後何かイベントをお考えになっておられますか。

○事務局

いせきんぐ宗像では、現在、寺子屋事業もやっております。全市的に呼びかけていますが、おもに東郷小学校の子どもが週に2回、3月までの間、単なる寺小屋というよりも宗像人づくりとして歴史体験学習をしています。子どもたちは「東郷で一番歴史に詳しくなる。」と言っています。それから花園部分もありますので、そこに地元で花を植えています。また、蕎麦も植えていますので、その収穫祭も考えています。来年度になれば周年祭、あるいは秋祭りというのがメインの事業として、イベントをしかけないと人がくるようなところではありません。その事業は共同事業にしていますので市民団体と一緒に知恵を出し合って活用を考えていきたいと思っています。

○委員

私はプレパークを手伝っていますが、いせきんぐ宗像でさせていただいています。私が住んでいる自由ヶ丘からすると、こんな芝生みたいな広いところがあっていいと思いました。やはり広すぎて結局、プレパークも端っこの方でやっている感じです。私たちも何かしなげをやっているといけなかなと思っています。ゴム跳びのゴムを作ってあげるとやっぱり遊ぶのです。そういう知恵を持っ

た方たちがもう少し集まれば活気づくのではないかと思います。子どもたちには、あのスペースはすごくうれしいみたいです。広いし、禁止事項はあるのでしょうけど、今のところ私たちの目の行き届くところでは、大きい声を出してもいいし、いろんなことができる場所になっています。ただ、実際は東郷小学校の子どもでないと来ることができないというのが、子ども会活動などでこういうことができるよと、プログラミングすれば活気がでるのかなと思いました。

○会長

ありがとうございました。3番目の報告事項も承ったということで報告事項3件はこれで終わらせていただきたいと思います。4番目の議事へ進みます。

#### 4. 議事

##### (1) 平成26年度宗像市郷土文化学習交流館事業報告（年報）について

###### 【事務局説明】

○会長

年報そのもの、年報の中の事業について、あるいはその他についてお気づきの点、ご意見、ご要望がございましたらどうぞ。

○委員

私以外の協議委員の方々に、私が現場にいて感じていることを申したいと思います。開館以来、むなかた館に接しており、まず、むなかた館にたくさんの方が来てもらわないとはじまらないという観点から申します。当たり前のことですが、人それぞれ興味の対象は違います。たとえば、2、3例を挙げますと新春に子どもたちの絵が飾られます。その時に、たくさんのおじい様やおばあ様がお孫さんの絵を見られて、それはそれは幸せな気分になって帰られます。この方たちのほとんどはむなかた館の展示物は見られずに幸せな気分のまま帰られるのですが、この方たちにとってむなかた館というのは本当に幸せな良い場所として残ると思います。そして、また沖ノ島の辺りの海のことについて説明してありましたら、小学生のお子さんが「サメはいるのですか」と質問なさいました。このようにこのお子さんにとって沖ノ島よりサメがいるかの方が大切なことなのです。そういうことから申しますと、限られた人数でこのむなかた館のスタッフの方がほんとうにたくさんイベントをしてくださっています。大変失礼ですが、私も最初の頃は、イベントのテーマがとりとめもないと思っていたのですが、これは紛れもなく私の興味の観点からそう考えていたことであって、館長がよくおっしゃいますように「楽しくなければ博物館じゃない。楽しいのが博物館だ」という観点から申しましたら、みなさんの努力でむなかた館というのは楽しいものになりつつあるのではないかなと日々感じております。先ほどおっしゃいました体験学習も次から次へと考えてくださっていて、体験学習のリピータも増えております。私はたまにしかこちらでお手伝いできませんので、私の知らないような体験学習も増えていてそういう意味ではむなかた館にとって、沖ノ島と関連遺産群が本登録になるところがゴールでないと考えましたら、いろんな興味を持った方にとりまして、むなかた館は、魅力あるものになりつつあるのではないかと最近感じるようになりました。ただ、他の協議委員の皆様には、この数字で示すしかないとは思いますが、その数字の中にはそのような動き、流れがあって落ち着きつつ、北斗の水くみなどが、その中からでも定まったイベントとして出てきているのではないかと考えています。

○会長

確かにおっしゃるような世代・性別・年齢で関心の持ち方が違う、ここにいる協議会のメンバーも、職員の方も大人ですけどその視点と若い方、特に義務教育とか中・高・大ぐらいの方と違うところもあるので、そういうものをどういう風にアンテナを広げて拾い上げていくかというのも1つの課題みたいなところではないかと期待します。あまり間口的になってもいけないし、しかしそういう部分を持たないといけないというその境界というか、質をおとしてもいけないし、専門的なものをふまえた

上での専門的なものがなければ、易しく説明できませんので噛み砕いた説明なり展示がどうできていくか、ここに限らず大きな問題ではないかと思えます。今のご意見等を1つのきっかけになにかごいませんか。

○委員

トヨタとのコラボレーションとか模型などは、管理運営体制の交流係と文化財係のどちらの方が担当されているのでしょうか。

○事務局

郷土文化係がメインでやっておりますが、特別展などは、郷土文化係だけでは手が回りません。そうすると文化財係の力が必要となってきます。この前の秋の特別展の「むなかた国はあったか」は、文化財係がメインとなって仕上げました。係の枠を乗り越えて、それぞれの長所を活かし補いながら館の運営をしているというのが現状でございます。

○委員

イベント業者の方が入るとい事はないのですか。

○事務局

もともとイベント企画業者はおりまして去年まで委託していたところがあるのですが、この間の化石展なども、宗像から出た化石でしたので、すべて私どもが材料を用意し、文章を考え、これでパネルを作ってくれ、これで図録を作ってくれとか、ここから化石を借りてきてくれとかそういった役割分担の中でさせていただいており、昨年度の26年度については、むなかた館のスタッフの企画によって実現した事業がほとんどとなっています。委託業者の方々は、運搬や印刷製本などでご協力いただきました。今年度は委託をすべて切りまして、現在は、私どもが、印刷は直接印刷業者へ委託するなどにかえています。

○会長

よろしいでしょうか。そういう意味では、館全体のスタッフの方の手作りということになるわけですね。そういうことでその危惧は全くないのですが、今問題になっているつたや図書館のようになってもらうと困るのですが、過去の話ですがイベント業者が企画を持ち込むなんてことがあったのでしょうか。もちろんお受けにはならなかったでしょうけど。

○事務局

昨年度もそういう形でもってこられたことはありましたが、最終的には化石展をおこなったり、私どもの企画の方をおこなってきました。私が平成26年度にこの館にくる前の段階で委託していた事業もありますので、その中でそれを採用したかどうかについてはここで回答できるデータも持っていませんが、平成26年度以降については、企画ものについては私どもで考え、おこなっております。

○会長

余計な話で申し訳なかったです。私の方から少しずれた質問かもしれませんが、この年報というのは、そもそも何を目的としているのでしょうか。たとえば、事業報告というのは行政もあげてくると思いますがそこで何がうまくいったか、何に問題があったかなどの自己分析を宗像市の場合もお作りになるのではないかと思います。たとえば白書ではないにしても年報の中でこれだけのイベントや企画をやったと、そこでの経験とか体験ということはどういう点がうまくいったか、どうい点がまずかったか、昨年、一昨年と比べてどうい点を改良するなり、また新たな取り組みをしてみたかというようなコメントをいれてもいいのでは。もちろん大変な労力であることは百も承知の上で言っていますが、仮に行政でそういうような報告書をお作りになるのであれば、あるいはならなくてもこれが外部に発信するものであるならば、何か年報の中で多少自己分析的なそういうものが入ってもいいのではなからうかと思えます。そういう点はどうでしょうか。

○事務局

この年報ですが、私の引き継ぎの中で聞いているところですが、博物館として今までどういったことをやっているかという実績として残すものと聞いています。おっしゃる通り、反省点など、そのようなものについては、この中ではなく、これはあくまでも実績だけの掲載でとどまっております。

○事務局

補足で博物館の中で年報を残していくといくことは、大きな理由としては実績です。年報にかかっている実績によって他館との交流や自分の館はこういう展示をしたが、他はどんなものを展示しているのかなど館と館の交流に役に立つと、年報を積み上げていくことによってその館の実績やその館がやってくるプロセス、どんなことをしたとかいう館自体に重み加わってくるということが、この年報の中にはあります。

○会長

どうもありがとうございました。われわれとしてはいろんなご報告を聞いて、イベントを計画されているのを聞いていいですねというようなことを申し上げるのですが、実際にイベントに当たられている方の良かった点、うまくいった点などそういうものをどこかでまとめておられるのですか。

○事務局

年報をご覧いただきたいのですが、海の道むなかた館には展示活用事業費と管理運営事業というものが、こういった事業の報告があります。その中で、これだけの経費を使った結果どうだったというように報告させていただいています。

○会長

それは情報公開の対象になりますか。

○事務局

はい、なります。

○会長

ご努力されていることよくわかるのですが、ここが良かったなど何かまとまったものがあると議論するとき、考えるときに非常に役に立つのではないかと思った点があったのでお聞きしました。ありがとうございました。機会があるときにご検討いただければと思います。

○委員

体験学習は、子どもたち以外の人も体験しているのでしょうか。大人も入っていますか。

○事務局

大人の方の体験も入っております。

○委員

子どもと大人の割合というのわかりますか。

○事務局

割合は把握しておりません。

○委員

はいわかりました。それから23ページで気になったのが市内小学校の利用状況の中で赤間小3年生の欄は、74人で学校計は、71人に減っています、また玄海小2年生23人が学校計で21人なっています。これはどういうことでしょうか。

○事務局

申し訳ありません、おそらく数字の間違いだと思います。これには確認させていただきます。ありがとうございます。

○会長

もう1つ気になったのが、その下のその他学校関連来館のところで福岡教育大学 社会科教育学科とありますが、社会科に所属する学生と教育学科に所属する学生が2グループで来たと読めるのです

が、郷土学習なので教育学科の学生がするはずはないので、あれっと思いました。表記の問題で、たいしたことではないですが、このような書き方はまずいと思います。

○事務局

確認させていただきます。ありがとうございました。

○会長

議題ということでご意見をいただきましたが、今日の議題のこの年報についてということでもしご意見がなければご承認いただいたということでもよろしいでしょうか。よろしいですね。それでは承認ということにさせていただきます。どうもありがとうございました。最後にその他とありますが、事務局の方からは特にないとのことでございます。年に2回ぐらいしか集まらない機会ですのでこの館に係ることなんでも結構ですのでご意見・ご質問を委員の皆様からお出しただければありがたいと思います。

○委員

国内推薦に選ばれたということだとぶん世界遺産になるのではないかと思います、何しろ私たちは行けないところですので沖ノ島に関するのをこの館で担うべきものが多くなっていくのではないかと思います。ここの3D体験など沖ノ島に行けなくても行ったような気分になるようなしかけなど、観光で儲けようというのはおいて、世界遺産として大切に保存していくことを中心に、ここが発信源になっていただけるといいかなと思っております。

○事務局

今言われてように行けない世界遺産ということで注目を浴びていますが、行けないからこそ沖ノ島の価値をどうやって伝えていくか、知ってもらおうかということが大事なことです。1つは大社の神宝館ですね。沖ノ島から出た神宝が国宝に指定され、約8万点といわれています。そういったものが展示されています。何故これほどのものが沖ノ島に捧げられたのか、そういったものの価値を正しく伝える、また、こちらの館に来てもらえれば、3D映像やアニメで沖ノ島の姿を見ていただくことができます。今、映像ソフトが不足していますので、こういったところの充実を今後考えていかないといけないと思います。それともう1つ、観光じゃないというのは市長も常々言っていることで守っていくために世界遺産に名乗りを挙げたということです。ただし世界遺産ということになりますと、他の世界遺産を見ているお客が増えることは明らかなことで、こうやって来ていただいた方に満足をしていただくために、おいしい食べ物を食べていただくとかそういったことも当然必要になってくるし、またここに来るまでの交通手段、せっかく来たのに渋滞で何も見るができなかったということがないように今から2年後にむけて準備していかないといけないと思います。

○委員

今現在、沖ノ島の周りがどのようなになっているかという情報が入ってきております。皆さん結構、関心を示して、ボートなどでの出沒がすでに発見をされております。当然、海の保安的な問題になってきますので、漁業者が手を出すわけにはいきません。現状は、すでに起きているということです。そのような状況になってきたときに、世界のイコモスが来たときに、そのような状況を何も抑えきれないまま、若者がどんどん沖ノ島に周辺にあらわれるとイメージ的に非常に厳しいものがあるということです。今、現在からそれが起きているということです。地元としましても非常に心配しています。そこで事故などが起きますと新聞に大きく載りますので、世界遺産の推薦を受けたところで死亡事故発生などということが起きないという保証はありません。だから一番大事なことは、きちんと法的な措置をもってやっていかないと、これから尚、一層ハードルがあがってきて、悪質な状況になるような気がしてなりません。さきほど、つたやの話がでましたので、われわれ環境部会の方でのししの話が武雄でありましたので、行った帰りに武雄の図書館に寄りましたら、図書館が観光地になっていて見事なものです。観光地化するというより、この辺りには空いている土地もありまして

実は 17 年前になります、田んぼが空いているということで、それをうまく利用していきながら、さきほど言われたように子どもさんたちにそこで遊んでもらいながら、そして全体的な入館者を増やしていこうというやり方を考えていくべきではなかろうかなと思い、その中の一環として裏の芝生広場に食堂や屋形船等をもうけてやったらどうかという意見も、ずっと前にあげさせていただいています。できたら表の照明など堂々と三面水車をあげていいのではないかというような、世界遺産の景観についていろいろあるかと思いますが、その意見は世界遺産のそのような動きになる前の話しでございます。この館を活かすためにというテーマとしてあげさせていただいたということです。心配なのは沖ノ島が今そのような状況下に入っているということをご報告させていただきます。

#### ○会長

ありがとうございます。そうですね、沖ノ島は島なのでどこからでも上陸できるし、神職さんもお一人しか原則上陸できないし、昔ある神職さんから聞いたのは、ある時ひとりであそこに居て夜ふと人の気配を感じて目を開けると数人の男が上から覗いていたと、それが全員韓国人だったと聞いて「うわー」と思ったことがあります。これは中世の河窪先生のご専門ですが、中世古来の連中が沖ノ島によく来ていたという資料も残っていたりするので、結局、海はあらゆるところと通じているけれどもあらゆるところから入ってこられる可能性があるという非常に怖いところがあるので今おっしゃったことは、新しくてしかし古い、古くて新しい、今後更にいろんな連中が行くと思います。ゴムボートと小さなエンジンがあれば行けるはずなので、大社だけでは手に負えなくなるということもあるのではないかとそういうところも併せて世界遺産を守るのであればどうするかというところが突き付けられた課題ではないかなと思ったりします。ほかにございませんでしょうか、ここの場所のことで湿地だったということがありましたが、初めてそのことは聞いたのですが、例えば赤間駅前に土穴というのがありますが俗説かどうか知りませんが、湿地でレンコン畑でレンコンを抜いたあとが土穴だと実しやか話を聞いたことがあって、そういう理由で土穴かと納得したんですけども、それと稲元も辺りが昭和二十何年に大洪水が起こったというようなことがあります。そこでわたくしの個人的希望でもあるのですが、考古学的、歴史的なことだけではなくて、その舞台になった宗像市、宗像郡の地質状況がどうであったか、かつての旧宗像市史を作ったところでは、ボーリングをして、縄文の海進がどこまでだったか、海退がどうであったかが、おそらく土木部の方が地質をもっておられるのではないかと思います。宗像のフィールド、土地条件がどういうものであったかということをもとめて展示されておくと今自分の住んでいるところが沼地だったのかなど宗像大社のところがこんな状況だったのというような歴史を考える背景になるのではないかと思います。私の個人的願望みたいなものがありますが、これに 40 年来思いながら一回もやったことはないのですが土地条件、遺跡、式内社とか、全部をおとしていくとおもしろいだろうと思います。もう 1 つは、例えば近世の地誌類などをもう一度改めて検討する。近世地史宗像郡、宗像郡だけを集めた本が出ていますが、もとになった手書きや版文をそういうものを転記なさって一度地史類にみえた宗像とかを検討してみるのもおもしろいかなと思います。一度ご検討いただくとおもしろいイベントになるのではないかと思います。個人的な希望としてはご検討いただいて一歩でも近づけると面白いかなと思います。特に地形や地質の問題は非常に重要だろうと思います。古代の宗像はどこまで海岸線があったのかとか、釣川がどこまで入ってきたのかとか東郷橋まで入ってきたはずなのでそういうのと地名と合わせてみるとおもしろい問題がでてきたりするかなと思います。

#### ○事務局

さきほど会長よりお話がありましたが、私は新しい宗像市史の編さんの事務局長をさせていただいております。今ご提案いただきました地質の件、近世の地史類の件ですが、地質に関しては調査に入っている状況です。近世の文書に関しても担当の部会を設けて調査に入っている状況なのですが、今、会長からいただいた提案は部会長等々に投げかけて今後の参考させていただきたいと思



います。ありがとうございます。

○委員

さきほども言いましたように、むなかた館に来た方が来てよかったと思われるように出光佐三展のようなホームランもあれば、そうじゃないイベントもあるかもしれませんが私も微力ながらお手伝いしたいと思いますのでどんどんよろしく願いいたします。それから最近、世界遺産候補に登録されてから遠くからみえるお客様がとつても増えております。スーツケースを持たれたり、大きなリュックを担がれたり、天神の方から西鉄バスがおっしゃっておられましたが、やはりとても不便だと思うのです。車が便利であり、いっばいくると地元の方のとつてもご迷惑になる。こういうことになってはいけないと思うのですが、もう少し遠くからみえた方がこちらに便利に、しかも地元の方にご迷惑にならないように時間をかけて皆さんと協議していただければいいかなと思っております。

○委員

本当に盛りだくさん毎年毎年、頭がさがる思いですが、やはり楽しくなければ博物館ではない、どうぞ館の中にいらっしゃる皆さんも楽しくお仕事ができるようにお祈りしております。

○委員

この会議に遅れてきましたことをお詫び申し上げます。香椎の方でヘリコプターが回っていたので大きな事故かと思いますが、それに出くわしてしまいまして、まったく前後左右に動けない状態になってしまいました。こんなに遅れてしまいましたことと、前半の協議に参加できなかったことがたいへん残念で仕方がありません。お詫びと残念な気持ちをお伝えしたいと思います。この協議会につきましては今年の3月に私にとっては、1回目の参加をさせていただきまして今日は2回目でございます。それ以来、宗像市の行事や事業につきましては、たいへん関心が高まっておりますして新聞やニュースを、目を凝らしてみるといふ状況になっています。世界文化遺産の推薦に決まったときも自分のことのように喜んで自分を発見しておかしかったのですが、それでも他地区に住んでいますと、こういうニュースなんだなあというぐらいにしか気に留められないと思います。この協議会に参加させていただくと、やはり宗像市の皆さんの期待であるとか不安であるとかそういう気持ちを直に感じることができます。そういう意味では、この協議会に参加させていただいていることをたいへんありがたいと思っています。私は、宗像市以外に住んでいますので、おそらく宗像市の状況につきましては皆さんが一番良くご存じで、私はもっと勉強しないとイケない状況ですが、ただ太宰府市も歴史・文化・遺産に関してたいへん多く、著名なものがありますし、その中でずっと過ごしてきておりますので別の視点や観点で参考になるようなお話ができたり、情報提供ができればいいなと思っております。特に沖ノ島については今後どんなふうになっていくのか、ものすごく興味が深い、福岡県だけではなく九州の方も女人禁制の話もありましたし、海であるということもありましたし、どういふようにもっていかれるのかというプロセスを含めて関心が集まるのではないかと思います。今後も勉強させていただきながら協議会に参加させていただきたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

○会長

最後にひとこと、さきほど釣川を屋形船で渡れとありましたが私も大分前から言っています。同じようなことを感じる方がいるのだなと心強く感じました。以上で終了いたします。長時間ありがとうございました。